しんしろ城下町の会 Vol.25

活動への応援、ご協力をお願いします。

新城中部地域計画キャッチフレーズ

新城城下に
華やかさと賑わいを！

しんしろ城下町の会は、新城市地域活動交付金事業を受け、「**新城中部地区・地域交流促進事業**」を実施しています。

新城中部地区・地域交流促進事業

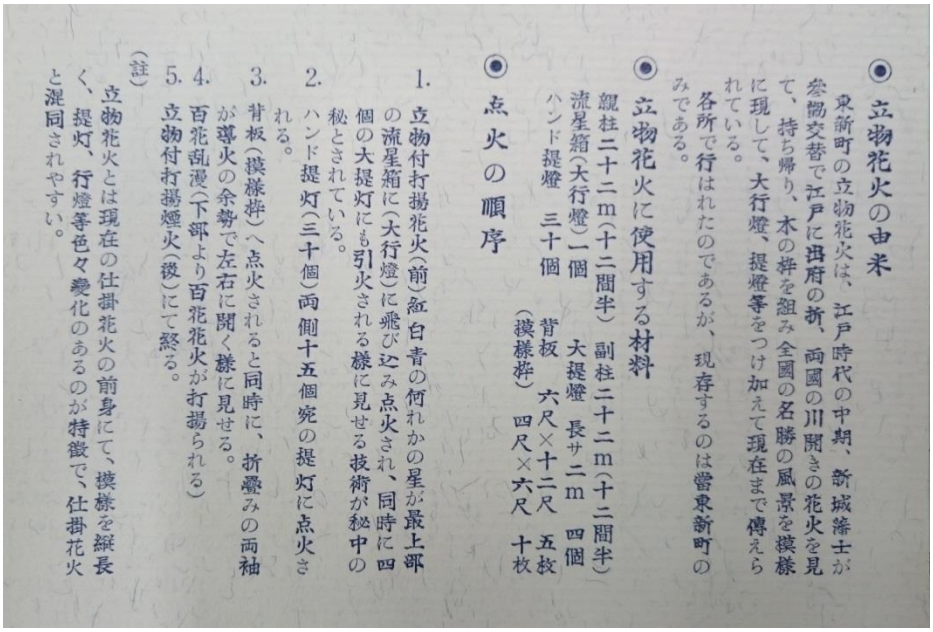
①歴史を感じるまち
昨年度開催した『今昔物語』の続編として、当地域の歴史文化を中心とした資料展示、講習会の開催

②きれいなまち
小学校農場「ふぁんふぁんファーム」にてサツマイモ及び花の栽培、『奇跡のヒマワリ』等の栽培

③元気なまち
講師によるラジオ体操講習会の開催、しろあと資料館付近の散策道の整備

新城中部　今昔物語　続編
展示資料を紹介します！

平成29年2月4日(土)・5日(日)の2日間、新城文化会館展示室にて『能楽』『立物花火』の展示講演会を開催します。前回の『能楽』に続き、今回は、『立物花火』について紹介します。



◉立物花火の由来

東新町の立物花火は、江戸時代の中期、新城藩士が参勤交替で江戸に出府の折、両國の川開きの花火を見て、持ち帰り、木の枠を組み全國の名勝の風景を模様に現して、大行燈、提燈等をつけ加えて現在まで傳えられている。

各所で行はれたのであるが、現存するのは當東新町のみである。

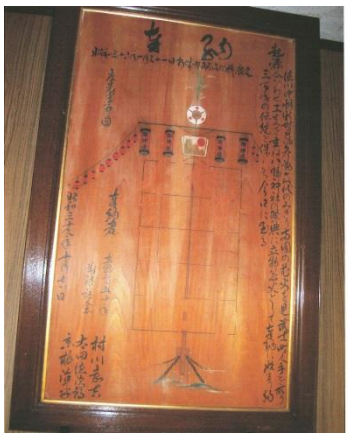
◉立物花火に使用する材料

親柱二十二m(十二間半)　副柱二十二m(十二間半)
流星箱(大行燈)一個　大提燈　長サ二m　四個
ハンド提燈　三十個　背板　六尺×十二尺　五枚
(模様枠)　四尺×六尺　十枚

◉点火の順序

1. 立物付打揚花火(前)紅白青の何れかの星が最上部の流星箱に(大行燈)に飛び込み点火され、同時に四個の大提灯にも引火される様に見せる技術が秘中の秘とされている。
2. ハンド提灯(三十個)両側十五個宛の提灯に点火される。
3. 背板(模様枠)へ点火されると同時に、折畳みの両袖が導火の余勢で左右に開く様に見せる。
4. 百花乱漫(下部より百花花火が打揚られる)
5. 立物付打揚煙火(後)にて終る。

(註)
立物花火とは現在の仕掛花火の前身にて、模様を縦長く、提灯、行燈等色々変化のあるのが特徴で、仕掛花火と混同されやすい。



八幡神社に奉納してある貴重な資料等も当日展示されます。展示講演会の詳細につきましては、来月中に紹介させていただきます。

お楽しみに！

まちづくりや地域への提案などありましたら、気軽に声をおかけください。
発行　平成29年1月4日
新城自治振興事務所
電話　0536（23）7693
FAX0536（23）7694